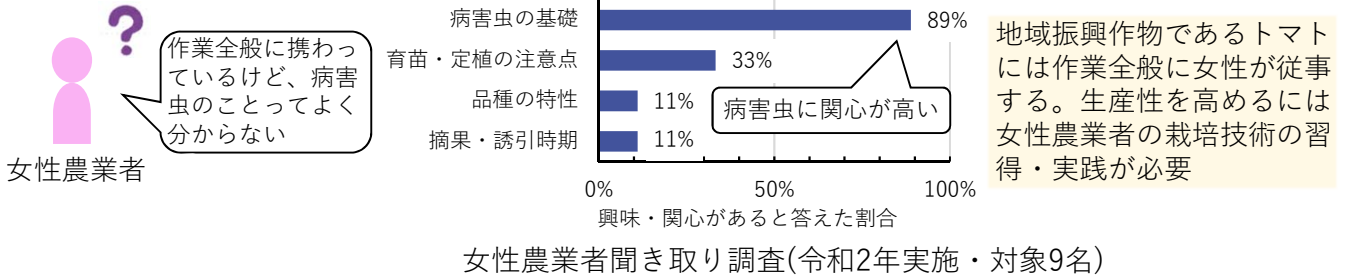


女性農業者のトマト栽培技術の習得と実践

活動対象：JAびえいとまと生産部会置杵牛地区9戸

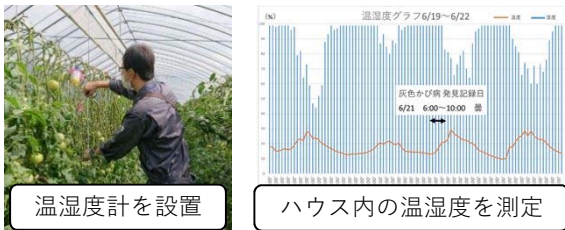
美瑛町は、大玉トマトを地域振興作物として位置付け、生産・品質向上の取り組みを進めてきた。トマト栽培管理に従事する女性農業者の多くは、病虫害と対策に関心を持つことから、発病調査や防除対策試験を実施し、ハウス内温湿度と病害発生との因果関係、土壌病害「トマト褐色根腐病」に対するフスマ施用効果の確認した。病害発生と対策技術に関する知識の習得を促すことで、女性農業者の技術向上と農業経営参画を推進した。

1 課題設定の背景



2 活動の経過

①ハウス内温室度・病害発生記録



3戸で温湿度計を設置し、発病発生記録から環境条件と灰色かび病発病の関係性を理解

②褐色根腐病対策 現地研修会(10月)



収穫後の株を抜き取って、病斑の状況から褐色根腐病に対するフスマ施用の効果を確認

③年間の活動結果を報告(1月)



今年度に取り組んだ調査・試験結果を報告。病害発生要因、対策を再確認

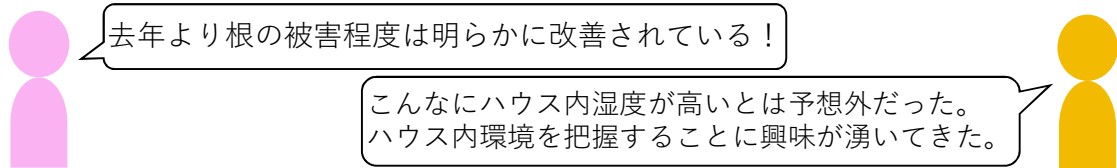
④環境モニタリングシステムの検討(2月)



次年度、ハウス内環境をリアルタイムで監視できるモニタリングシステムの利用を検討

3 活動の成果

- 現地で抜き取った根部の病斑確認から、褐色根腐病に対するフスマ施用効果の理解が深まった。さらに測定して見える化した土壌菌密度の違いから、フスマ施用の有効性に対する認識が高まった。
- ハウス内の温湿度変化をグラフによって可視化し、病害発生との関係を考察し紹介したことで、ハウス内環境を把握し即座に対処することの重要性が理解された。



4 今後の活動

- 新たな褐色根腐病対策として、病害抵抗性台木の効果確認を行う
- 3戸に環境モニタリング機器を設置し、ハウス内環境を監視し、地区内で共有・活用する